

神戸昇天教会月報

☎652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490
 FAX (078) 361-4539
<http://nssk-kobeshoten.org/> 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎主日礼拝を大切に守ろう。
- ◎他教会の働きを知ろう。
- ◎教会ホームページの充実と活用。
- ◎地域との交流促進。

聖語 御言葉を宣べ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい。(Ⅱテモテ 4:2)

主イエス・キリストの御昇天 ～青空と新緑の美しい季節に～

澄み渡る大空はなんと高く壮大であることか。

天の姿はなんと栄光に満ちていることか。(シラ書 4 3 : 1)

司祭 ミカエル 小南 晃

五月晴れの言葉の通りに、明るい光に溢れた青空と、木々の新緑が美しい季節になりました。

上記の聖句は「太陽は現れ、燦然と昇り行き、宣言する。いと高き方の御業はなんと驚嘆すべきものか。(シラ書 4 3 : 2)」という言葉に続いて行きます。シラ書 4 3 章全体を通して、そこには天地を創造された主なる神の御業への賛美が溢れています。

美しい自然や草木の成長を見る時、私たちもまた生かされている存在であることを覚え、またこうした自然の背後に神の偉大な力、また慈愛を自ずと感ぜられるのではないのでしょうか。

そしてこの美しい季節に、教会暦は主イエス・キリストの御昇天を覚え、そして聖霊降臨の出来事を覚えようとしています。

主イエスの御昇天

主イエス・キリストのご昇天は、使徒言行録 2 章 8 節以下に次のように記されています。

「イエスは彼らが見ているうちに天にあげられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれる時、彼らは天を見つめていた。」

そこにはもはや姿が見えなくなった主をなごり惜しむ弟子たちの姿が現れています。彼らを覆っていた思いは心細さだったでしょう。昇天後主日特祷は「どうかわたしたちをみなしごとせず、聖霊を降して強めてください・・・」と祈りますが、この「みなしごとせず」と言う言葉にその心細さが滲み出ているように思います。

しかし主イエス・キリストの復活の御姿が見えないということは、「見ないで信じる信仰」へと成長する機会であり、また主イエスが去って行かなければ、弁護者(聖霊)は来ないと、主は予め告げておられました。主の御昇天は弟子たちの信仰の成長を促すものであります。

共にいてくださる主

さらに復活の主イエス・キリストが天に昇り見えなくなったということは、主が私たちから遠いところへ行ってしまったということではなく、復活の主が子なる神としての栄光を受け、そしていつでも、どこでも私たちと共にいてくださるということを示すものです。

ルカ福音書や使徒言行録が主イエスが昇天し、雲に覆われ見えな

くなると表現していることは、マタイ福音書 28 : 20 において「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と主イエスが語られている内容と同じことであります。

そしてヨハネ福音書では主イエス・キリストが天に挙げられて、お受けになっている栄光は、キリストが世に来られる以前から、神の言(ロゴス)として世の初めから持つておられた栄光であるということを告げており、さらに福音書の冒頭で天地万物は他ならぬその神の言(ロゴス)によって成ったということを書いてあります。

青空と新緑の季節に

そうしますと、私たちが、多くの恵みを与えてくれる自然の中で神の御業を覚え称えるということは、神の言(ロゴス)として父なる神の右に座し、天地万物を支配しておられる主イエス・キリストを覚え称えることでもあります。

その意味で主イエス・キリストのご昇天を覚えることと、天地万物の営みに主のみ業が働いていることを覚えて主を賛美することとは互いに奥底では繋がっているとも言えるのではないのでしょうか。

澄み渡る大空の背後に、世の終わりまで、私たちと共にいてくださる主イエス・キリストの存在を覚えながら、私たちが喜びをもって、主から託された使命を果たして行いけますように、この時にあたって共に祈り求めたいと思います。

定例集会

日 午前 7 時 早朝聖餐式
 " 9 時 15 分 教会学校
 " 10 時 30 分 聖餐式・説教
 午後 6 時 夕の礼拝

火 午前 10 時 30 分 聖書研究会
 土 午前 10 時 30 分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)